



小学校特別の教科道徳における ダイバーシティ教育の在り方 -学習指導要領と検定教科書の分析を通して-

初等教育コース 開田 樹

(指導教員 眞城 知己)

問題の所在と目的

SDGsにおいてジェンダー平等、差別や不平等の撤廃に関する項目やターゲットが設定されるなどよりよい世界・社会を築く上で「人々の価値観の変容」が必要要素になっている。日本の教育界においても学校における児童の多様化を背景として、現在までに文部科学省は様々な提言を出している。一方でいじめの認知件数の増加を受け、本質的な問題解決に向かって歩みだすことが必要であり、心と体の調和のとれた人間の育成の観点から、道徳教育の重要性を改めて認識し、その抜本的な充実を図るとともに、新たな枠組みによって教科化する提言が、2015年には発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図る旨が示された。2017年には小学校学習指導要領の改正が行われ、小学校において「特別の教科道徳」が翌年2018年度より全面実施された。以前からの大きな変更点の1つに、特別の教科道徳の主たる教材として検定教科書が導入されたことが挙げられ、私は「多様な価値観について言及されている小学校学習指導要領に準拠して作られた道徳の検定教科書において多様性(ダイバーシティ)に関わる内容がどのように扱われているのか。」という疑問を抱いた。

そこで「ダイバーシティとは、文化、人種、国籍、ジェンダー、障害、宗教、政治的信条などのそれぞれが多様であることを意味する。ダイバーシティ教育とは、これらの多様性を受け入れ、互いに尊重し合う態度や行動を醸成することである」(渡邊ら 2017)という定義をもとに、大西(2020)の研究において行われている道徳の検定教科書の分析の方法を参考にしながら、本研究では小学校学習指導要領と道徳教科書におけるダイバーシティ教育の位置づけを整理・分析することで、特別の教科道徳の授業における課題や今後の指導方法を考察した。

方法

分析対象資料

東京書籍、光文書院、学研、光村図書、教育出版、日本文教出版、学校図書、廣済堂あかつき 以上8社の1～6年生の道徳の教科書計48冊

分析方法

1) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編においてダイバーシティ教育に関する目標や内容項目を整理した。

2) 教科書の中からダイバーシティ教育に関わる内容を含んでいる教材をピックアップし「ダイバーシティ教育に関わる内容を主題として扱っている教材」「ダイバーシティ教育に関わる内容の記述、挿絵がある教材」に分類した。
・本研究では異文化(外国人のことについても含む)、高齢者、障害理解、UD等(ユニバーサルデザイン、バリアフリー)、宗教、LGBT+、その他(多様な価値観、価値観の違いについて扱うもの)についての内容をダイバーシティ教育に関する内容として扱い分類するカテゴリとした。
・複数のカテゴリに該当する教材や記述はいずれのカテゴリにも該当するものとした。
・数のカウントは教材単位で行い、1つの教材に同じカテゴリの記述が複数含まれていても、カウントは1とした。主題として扱われている場合は、その教材中の同カテゴリの記述はカウントしないこととした。

3) 2)でピックアップした内容を学年別、カテゴリ別に整理した。

4) 整理した学習指導要領と道徳教科書の内容を基に、小学校の特別の教科道徳における内容や指導方法の今後の課題を考察した。

結果

1) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編の内容整理

指導要領全体としては小学校6年間・幼少との接続も視野に入れた段階的指導、他教科や体験活動との関連的指導に重点が置かれている。また授業に関する内容では、「自分とのかかわりで捉える/自分なりに考える」「気付き/気づき」という表現から『児童主体』が1つのキーワードと考えられる。ダイバーシティ教育自体は指導要領に記載されていないが、道徳の目標が多様な理解の過程と大きく重なること、「多様な感じ方・考え方」「多様な価値観」という表現がよく見られることは特別の教科道徳においてダイバーシティ教育を扱うべき大きな理由になると考えられる。内容項目に注目しても、相互理解、寛容がダイバーシティ教育と大きく重なるだけでなく、異文化、高齢者、宗教が取り上げられている。さらに多様な見方や考え方があることや一面的な理解では解決できないものと児童に気付かせ、答えが定まっていなかった問題や多面的・多角的視点から考え続ける姿勢や多様な価値観の人々と協働して問題を解決していこうとする意欲を育てることが大切であるという旨が「現代的な課題の扱い」として記載されており、ダイバーシティ教育の理念と一致しているところから、ダイバーシティ教育全体として現代的な課題に包含されていると考えることもできる。

2) 道徳教科書におけるダイバーシティ教育の学年別の扱い

①低学年(卒論本体では表2.3に整理)

他学年と比べ挿絵が多いことから、描きやすい異文化、高齢者、障害理解が中心となっている。児童の発達に合わせた段階的な学び等の観点からUDや宗教などの少し難しい内容は扱われていないため、他学年より総数は少なくなっている。

②中学年(卒論本体では表4.5に整理)

内容項目への「相互理解」の追加の影響からか、低学年では見られなかったUD等、宗教、その他の内容も扱われるようになる。異文化、高齢者、障害理解の総数も低学年より増加し、読み物が増えるなど扱い方も複雑化している。

③高学年(卒論本体では表6.7に整理)

扱いがあるいずれのカテゴリにおいてもダイバーシティ教育に関する内容の総数は低・中学年よりも多くなっている一方でUD等と宗教に関しては増加幅が小さかった。5、6年生では小学校の道徳教育のまとめ、そして中学校での道徳教育との接続を見据えていることから、中学年よりもその他のカテゴリが増加し、汎化を念頭にいたより客観的で多様な学びのある教材が多くなっているように感じる。

3) 道徳教科書におけるダイバーシティ教育の カテゴリ別の扱い

①異文化

海外の著名人についての教材、文化交流、日本と海外のつながりを描く教材が多い。記述としては海外が舞台の物語が全学年を通して見られる。

②高齢者

高齢者を通して親切な心や命の大切さを学ぶ教材、活躍する高齢者や高齢者の知恵に焦点を当てた教材が確認できた。主題・記述の総数は最も多い。

③障害理解

障害を持つ登場人物を通して、友情・親切な心・強く生きる姿勢を学ぶ教材が多く確認された。障害者への支援の在り方を考える教材もある。

④UD等

写真等を通して身の周りがあるUDやバリアフリーに気付かせる教材が多い。

⑤宗教

キリスト教用語を記述として扱う教材、宗教の忌行為に触れる教材が確認できた。

⑥LGBT+

主題として扱っている教材、関連のある記述や挿絵はいずれも確認できなかった。

⑦その他(多様な価値観、価値観の違いについて扱うもの)

「同じこと」に着目する教材、「違うこと」に着目する教材、負の価値観や価値観の齟齬から生まれる差別に着目する教材の大きく3種類に分かれる。

4) 特別の教科道徳におけるダイバーシティ教育の課題

1つ目の課題は「教科書で扱われている数にカテゴリ間で偏りがある」こと。内容項目に関連して挙げられている宗教よりも、内容項目として挙げられていない障害理解の方が圧倒的に扱いが多い。偏っていても多様な価値観は育成できるが様々な視点から学ぶ方がより広い汎化に繋がると考えられる。

2つ目は「違いに焦点が当たりすぎている」こと。当事者の登場人物を通して学ぶ教材が多いが、この扱い方では自分(児童自身)と異なる点を意識し、障害がある人や信仰する人を「特別な人」と認識してしまう可能性がある。多様性は双方向的なもので「自分も多様性に含まれている」と認識するためにも必要なダイバーシティ教育全体としての課題とも考えられる。

3つ目は「児童の学びや経験との繋がりが薄い」。道徳教育の要として他教科での学びや道徳教育を踏まえて行われるべきだが、物語として完成されている教材も多いことから、児童の実態がどこまで授業に活かされているかは疑問だ。

そして何より教師の価値観や教材の扱い方によって狙っている教育的効果が全く生まれなかったり、全く正反対の効果を与えてしまったりするような「教師依存」の現状にはやはり課題があると考えることができる。

考察

課題を踏まえた授業案の検討では、課題への対応として教材中の主題や記述を児童の実態や指導計画に合わせて調節すること、児童の反応に合わせて細かな発問を行うことで児童に自身の考え方について気づかせること、教師が積極的に児童の経験を引き出す場を発問や言葉掛けによって用意することなどが考えられる。

研究を行っていく中で、指導要領への記載や授業での扱いの方針が無いダイバーシティ教育が大きくそれぞれの教師や学校に依存していることもわかり、ダイバーシティ教育に触れるべからずのような雰囲気は教師の不安の表れであると推測することもできた。これらの現状を踏まえて「ダイバーシティ教育を授業でしっかり取り上げること」、「児童が自分との関わりで考えながら学べるようにすること」、及び「教科書教材中のダイバーシティ教育に関わる内容を教師が精査すること」をこれからの要点として挙げる。さらにダイバーシティ教育や道徳科の特性を踏まえると、授業者に依存せざるを得ないため、教師の知識・経験や指導方法などを増やすことが最重要点として早急に求められる。ここまで挙げてきた要点は当たり前のような提案に聞こえるかもしれないが、指導要領において方針が確立されていないダイバーシティ教育を0から1へと動かしていくためには、基礎の部分から見直していく必要があることは忘れないでいきたい。

主要文献

大西 孝志(2020) 道徳における特別支援教育の扱いについて～検定教科書の分析を通して～ 東北福祉大学教育・教職センター特別支援教育研究室, 12号, pp.3-13.

文部科学省 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編 平成30年

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFile.es/afidfield/2019/03/18/1387017_012.pdf